

痛覚変調性疼痛とうつ病に共通する生物学的病態基盤の探索

臨床精神・脳機能学 領域 石井 貴男 教授

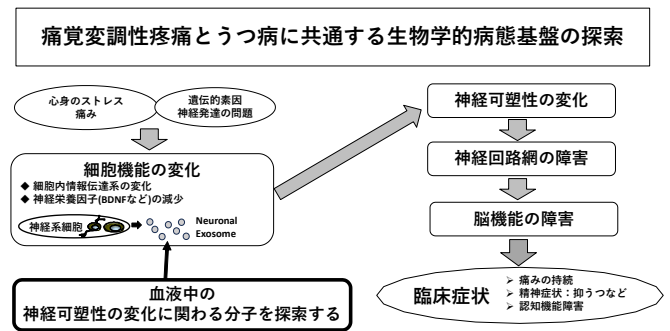


Q. どのような研究をされていますか？

A. 慢性疼痛の精神科的アプローチと、総合病院における精神科作業療法の研究に取り組んでいます。

長引く痛み（慢性疼痛）は、単なる身体的な問題だけでなく、心理的なストレスや脳の機能変化が複雑に絡み合っています。慢性疼痛の治療は、身体面だけではなく、精神科医療からのアプローチも求められます。うつ病などの精神疾患の併存も多く、共通する病態が想定されます。RNA などの分子発現の変化や、認知機能や性格傾向などを調べ、バイオマーカーの開発に向けた研究を続けています。今後は、治療法として、認知や行動に焦点を当てた作業療法の研究を進めたいと思います。

また、精神科リエゾンなど総合病院内での精神科作業療法の可能性を追求しています。慢性疼痛以外でも、身体疾患を抱える患者さんのメンタルヘルス支援（コンサルテーション・リエゾン）において、作業療法がどのような役割を果たし、回復を促進できるのかを実践的に研究しています。



Q. これまでどのような研究をされてきましたか？

A. 精神薬理学の研究や、せん妄や自殺予防など精神科リエゾンに関する研究をしてきました。

これまで、アルコールやストレス、向精神薬が脳の神経細胞に与える影響を分子レベルで解析する「精神薬理学」の研究に携わってきました。特に、成人の脳でも新しい神経細胞が生まれる「神経新生」のメカニズムと、その抑制要因を研究してきました。

臨床研究では、自殺予防やせん妄などの精神科リエゾンに関する研究にも携わってきました。

Q. 将来の展望をお聞かせください。

A. 「作業療法が脳を変える」ことをバイオマーカーで示し、作業療法の価値を高めたいと思います。

脳には環境や経験によって変化する「神経可塑性（かそせい）」があることが科学的に証明されています。この知見をベースに、薬物療法だけでなく、作業療法という「非薬物療法」がいかにして脳の神経回路を再構築し、回復を促すのかということを示すことができればと考えています。

もう少し知りたい!と思った方はこちらへ

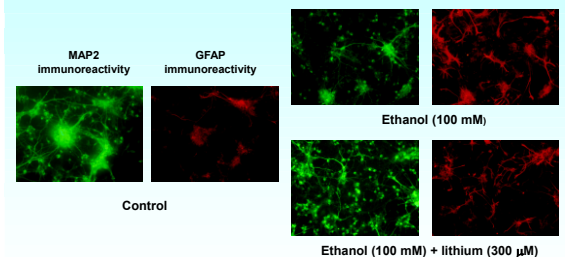
- 作業療法学科 基礎・臨床医学領域 URL

➡ https://web.sapmed.ac.jp/jp/school/health/course/ot/ot_kiso-rinsyou.html

- 大学院保健医療学研究科 理学療法学・作業療法学専攻 臨床精神・脳機能学領域 URL

➡ https://web.sapmed.ac.jp/jp/school/graduate/health/g_ptot/ahfmcrc0000003fj6.html

エタノールによる神経幹細胞の神経細胞への分化抑制に対するリチウムの効果



エタノールの神経分化抑制・グリア分化促進が確認され、リチウムはこのエタノールの作用を軽減することが示された